



K U Z U U

例会日 毎週火曜日
例会場 足利銀行葛生支店
栃木県安蘇郡葛生町
中央東 1-12-11
☎0283(86)2181

ROTARY CLUB NEWS

2003～2004RI 会長テーマ 「手を貸そう」 ジョナサン・B・マジャバ

葛生 RC 会長テーマ 「勇気を持って行動しよう」 福島 秀治

副会長 関口 泰一郎 幹事 酒庭 和一 副幹事 中田 秀昭

2003～2004 ⑱第 2089 回 15.11.18 例会場 於：足利銀行 葛生支店 PM12:30～

会長挨拶

皆さん今日は。

昨日は関東地方「木枯らし一号」が吹きまして、落ち葉が道路一面に広がっていました。また、北海道の旭川では本格的な雪で積雪も 15センチ以上にもなったようで、いよいよ冬の足音も聞こえて参りました。これからは、日一日と寒さも増して参りますので、どうぞ、今まで以上に体調管理に気をつけてお過ごしいただきたいと思ひます。

さて、先日よりご案内の通り本日は屋外での奉仕作業を予定しております。皆様には、お疲れのところ大変ご苦勞様ですが、例会終了後「あくとプラザ」駐車場にお集まり頂きますよう、宜しくお願ひいたします。

会長報告

1)先週、11月6日(木)に葛生RC会長杯婦人バレーボール大会がおこなわれまして、開会式に、私と、酒庭幹事、谷さん、中田さん、駒形さんの5名で出席して参りました。(試合の方は11月13日に終了しているようです。)

幹事報告

- ① 「秋の自然に親しむ会」に参加しました葛生小学校なかよし学級の生徒より礼状が届いておりますので回覧いたします。
- ② 田沼町ロータリークラブ・足利東ロータリークラブより週会報が来ておりますので回覧致します。
- ③ 11月例会のお知らせ・・・田沼町ロータリークラブ
11月2日(日) 田沼町どまんなかフェスタ 全員参加
11月13日(木) 振替休会
例会場変更・・・岩舟ロータリークラブ
12月9日(火) 12月13日(土) I Mに振替
12月16日(火) 通常例会
12月23日(火) 年末家族会 PM7:00 ホテルサンルート 栃木
12月30日(火) 特別休会
- ④ 例会終了後、あくとプラザ駐車場にお集まり下さい。参加者はメーク扱いとさせていただきます。

各委員会報告

< インターアクト 委員会 > 齊藤誠司副委員長

インターアクト 合同会議 11月5日 12:00~15:30 に出席しました。

『 会議の内容 』

- ・ 10月25日 足利工大付属高校 認証伝達式 県内11番目のクラブとして発足。
- ・ 足利高校 「財界とちぎ」12月号に載る。
- ・ 葛生高校 国際交流を進めたい。具体的には、校長先生の知人でペルー在住の岩本さんを通じて将来姉妹校を作りたい。
- ・ 栃木商業、国学院栃木、栃木工業 毎年ジャージ、鉛筆等をコンテナ一台にして東南アジアの国々に送っている。栃木工業高校では車イスを送っている。
- ・ 次年度年次大会予定 8月7日(土) 国学院栃木高校(ホスト校)
- ・ 研修旅行 場 所 韓国に決定
日 時 7月25日(日)~28日(水)
負担金 1クラブ 4名 × 40,000円 減る要素あり(△5,000円 1名につき)
インターアクトクラブ負担増

< 出席状況報告 > 馬場副委員長

* 本日の出席

会員数 48名 出席義務者数 42名 出席者 29名 事前メイクアップ 1名

出席率 **71.4%**

欠席者 奥澤会員、関口(文)会員、田沢会員、谷会員、千葉会員、吉澤(浅)会員、野部会員、横塚会員、吉澤(慎)会員、広瀬会員、駒形会員、椿会員
八下田(典)会員

* 前回(11月4日)の出席 メイクアップ 1名 修正出席率 78.6%

欠席連絡のお願い

やむを得ず欠席となる場合は、足銀葛生支店(86-2181)の高木さんまたは寺内さんまで必ずご連絡ください。

< ニコニコBOX 報告 > 小林委員長

中田秀昭君 妻の誕生日をいただき有難うございました。

寺内 聖君 妻の誕生日をいただいて。

齊藤誠司君 妻の誕生日をいただきまして有難うございます。

卓話

卓話は辞書(広辞苑)にも無い言葉です。卓とは「つくえ・テーブル、高い・すぐれた」とあります。高度な、優れた話が卓話ということになりますが、その様な知識・見識、経験を持ち合わせておらず、独断と備見で話させていただきます。

どんなテーマで話せば良いかが悩みであって、趣味の話でもとのアドバイスもありましたが如何せん無趣味が趣味の人生を送っているもので困ってしまい、自分のこれまでの歩みの一端を話させていただきます

私は就職して28年目となりますが、その間小山・宇都宮・浦和・東京・新潟の各地を経

験してきました。その中で、特に浦和は 12 年間住み着いた関係もあって、一番印象が深い所です。

浦和、今ではさいたま市となりましたが、旧浦和市は埼玉県の県庁所在地であります。それ以外何も無い町として有名でありました。昔は急行も止まらない県庁所在地とクイズの問題にもなったり、落語の小話で言えば「浦和と掛けて田舎のたばこ屋の洋煙と説く、その心はあるのはケントだけ」と言われていた時代もありました。その県庁も、設置の時熊谷市と綱引きがあり、現在の所在地の一部を浦和市が借上げて県庁用地に無償提供までして誘致した歴史もあります。(現在も続いています) その浦和が今ではサッカーの町 J1 の浦和レッズの町として知られてきました。

このチームの経営母体の正式名称は三菱浦和フットボールクラブ株式会社です。前進は日本リーグ時代の三菱サッカークラブであり、70, 80 年代は強豪と言われた時代もありましたが、1993J リーグ当初は 3 年連続最下位のお荷物と言われ、1999 入替制開始で 3 チーム同率最下位中得失点差 1 点で J2 降格を味わっています。翌年 J1 復帰しますが、最終戦延長 V ゴール勝ちと波乱万丈を見せるチームでもあります。このチームの特徴はサポーターの多さ、かつサッカー界の阪神と言われる熱狂的姿です。勝つ事より負ける事に楽しみを求める姿も似ています。J リーグ発足当時、会社の営業政策として地元の個人に後援会入会を呼び掛ける際に、個人のサポーターチームを受け入れました。これは個人 3 名から登録可能で、現在 500 から 600 の登録先があるとのこと。元々、広島・静岡・埼玉はサッカー先進地であり、受け入れる下地があった事も事実です。そして競技場が市街地の駒場競技場との地の利もあり、集客の土壌は有利ではありますが、やはり地道にファンを創る営業政策の実行が観客動員数の多さに現れていると言えます。更に赤い軍団と言われるような熱狂的ファンが加わり営業的に成功を納めています。

同様の事がもう一つの勤務地新潟でも見られます。新潟市は J1 昇格目前のアルビレックス新潟のホームですが、このチームの経営母体は予備校・専門学校を展開する NSG 新潟総合学院と言うところです。スポーツ不毛の地新潟で今年度新記録の 625 千人の観客動員を挙げています。一試合平均 29 千人と J1 平均 16 千人のほぼ倍の人数を集めている事は驚異的です。ここの営業政策は地元新潟県からの集客に重点を置いている事です。自治会回覧を通じて無料招待券を配りますが、観戦できる日を登録し、観戦できるようにした実効性のある配布に徹している事です。そして家族全員で観戦できるように仕向けている点もあり、これだけの数字が出ました。競技場も新潟駅から見えるビッグスワン新潟競技場とハード面の寄与もあります。しかし、実績を挙げた最大の要因は、いかに地元から集客するかに徹した事、すなわちスポーツを事業として採算を追求している点かと思えます。

以上、両社に共通する事は地の利・ハード面充実もありますが、根底に事業として成り立たせるとの考えを置いている点、特に最少費用で最大効果を得る目線を自分の守備範囲の地元に向けた点が大きいと思います。何とはなしに考えさせられるモデルと思うこの頃です。

取り止めの無い話で申し訳ありませんでした。以上で卓話と言う独断と偏見の独り言を終わらせていただきます。ご静聴有難うございました

会報委員長 八下田幸三

副委員長 椿 俊一

委員 須藤功一